

看護福祉学研究科

看護学専攻 / 社会福祉学専攻 (修士課程)

健康生活科学研究科

健康生活科学専攻 (博士後期課程)

支援制度

長期履修制度

看護福祉学研究科 / 健康生活科学研究科

職業を有している等の事情により、2年(後期課程は3年)では履修が困難な場合、2年(同3年)分の授業料で3年または4年(同4年、5年または6年)かけて履修することができます。

リサーチ・アシスタント

健康生活科学研究科

教員が行う研究プロジェクト等において、研究補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

教育訓練給付制度

看護福祉学研究科 / 健康生活科学研究科

一定の条件(雇用保険上)を満たし修了した院生に対し、授業料等の2割(上限10万円)に相当する額をハローワークから支給する教育訓練給付制度の講座に指定されています。

フィールドワーク研修旅費助成

看護福祉学研究科

授業の一環として、実地調査、情報収集等の研究活動を行う場合において、その研修に要する旅費を助成します。

ティーチング・アシスタント

看護福祉学研究科

学部の講義や演習等において、教育補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

学会参加旅費助成

健康生活科学研究科

研究領域の最新情報の把握と自らの研究成果発表を行う場合において、その学会参加に要する旅費を助成します。

入学試験概要

【募集人員】

研究科	課程	専攻	入学定員	学内推薦	一般	社会人	外国人留学生
看護福祉学研究科	修士	看護学	10名	—	10名程度	若干名	若干名
		社会福祉学	6名	—	6名程度	若干名	若干名
健康生活科学研究科	博士後期	健康生活科学	3名	—	3名		

【試験科目】

研究科	課程	募集区分	英語	専門科目	口述試験	小論文
看護福祉学研究科	修士	一般	○	○	○	
		社会人			○	○
		外国人留学生			○	○
健康生活科学研究科	博士後期		○		○	

試験日程

【第1次募集】

出願期間	令和5年7月26日(水)～8月2日(水)
試験日	令和5年9月3日(日)
合格発表	令和5年9月11日(月)

【第2次募集】

出願期間	令和5年12月19日(火)～令和6年1月4日(木)
試験日	令和6年1月28日(日)
合格発表	令和6年2月5日(月)

【入試に関するお問合せ】

福井県立大学 教育・学生支援部 教育推進課
TEL: 0776-61-6000 FAX: 0776-61-6012
E-mail: kyouiku@fpu.ac.jp
URL: https://www.fpu.ac.jp/

大学院入試に関する詳細はウェブサイトをご確認ください。

永平寺キャンパス

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1
TEL 0776-61-6000(代) FAX 0776-61-6011

〈京福バス〉

JR福井駅西口バスターミナル大学病院線
「県立大学」下車(所要時間約40分)
〈乗用車〉JR福井駅より約20分
北陸自動車道 福井北I.C.より約10分





看護福祉学研究科長
健康生活科学研究科長

よねだ まこと
米田 誠 博士(医学)

看護と社会福祉の ボーダーレスな教育と研究

「看護福祉学研究科(修士課程)」は、看護学専攻と社会福祉学専攻からなり、医療・看護学から社会福祉学までの幅広い領域を対象として扱います。両専攻が共に学べる共通科目を置くとともに、それぞれの専門科目も学修できるようにボーダーレスなカリキュラムを組んでいます。研究において必要な高度な専門知識、方法論、論理的思考や生命倫理を指導します。また、通信情報技術(ICT)の積極的活用による遠隔での授業・研究指導にも対応します。Virtual Reality(VR:バーチャルリアリティ)などの手法の利用や他専門分野との融合研究も推進します。将来の高度専門職・研究者・教育者を担うリーダーとなる人材を育成します。

「ウェル・ビーイングに 向けた共生社会」を目指す

「健康生活科学研究科(博士後期課程)」を2023年度(令和5年)4月に開設いたしました。本研究科では、保健・医療を担う看護学と福祉を担う社会福祉学が融合した「健康生活科学」という学問領域を新たに立ち上げ、「Well-being(健康と幸福)に向けた共生社会」を目指す研究の推進と研究者の育成を目的とします。

大学院博士後期課程「健康生活科学研究科」は、看護系の博士後期課程としては、福井県内では初めての設置となります。専任教員16名、学内兼任教員1名、学外兼任教員2名によって授業・研究のご指導をさせていただきます。健康基礎科学、看護(保健・医療)から社会福祉まで様々な研究領域を専門とする教員がそろっています。また、海外での教育・研究を経験した7名の教員もあり、国際的研究も行っています。Webによる遠隔講義・研究指導にも対応いたします。

今年度は5名が入学しました。

学位別 階層イメージ

学位	学部・研究科	学科・専攻
博士	健康生活科学研究科(3年) [博士後期課程]	健康生活科学専攻
修士	看護福祉学研究科(2年) [修士課程]	看護学専攻 社会福祉学専攻
学士	看護福祉学部(4年)	看護学科 社会福祉学科

看護福祉学研究科

看護学専攻

Major in Nursing Science

教育目標・カリキュラムは
ホームページへ

<https://www.fpu.ac.jp/students/d154794.html>



質の高い包括的なケアを目指して

- 1 看護学専攻は看護マネジメント学、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、母子看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学の8領域を設けています。
- 2 看護マネジメント学領域は日本看護協会の認定看護管理者審査要件を満たしています。
- 3 養護教諭一種免許状を有している人は、「養護教諭専修免許状」を取得できます。

取得できる学位 ▶ 修士(看護学)

修士論文タイトル(2019年度~)

- コロナ禍に入職した新人看護師のストレス対処力とリアリティショックとの関連
- 中堅看護師が副看護師長という新たな役割に向かう心理のプロセス
- 在宅血液透析介助者のストレス認知の評価とストレス反応
- 医療的ケアの特技獲得後に看護介入を受けて生じた母親の認識
- 中小規模病院における医師・看護師間の連携と退院支援実践との関連
- PNSにおいて新人看護師に関わる看護師の教育的役割遂行とバーンアウトとの関連
- 病棟看護師がとらえた師長の支援内容と組織風土との関連
- 臨床における看護職のパワーハラスメントと職務満足との関連
- 看護部長が看護師長への支援を通して自己成長を実感した対応の内容
- 介護保険施設入所高齢者の看取り期の判断を家族と共有するうえで看護師が抱える難しさとその背景に関する研究
- 就労妊婦の働きやすさに関する要因

研究紹介

こじま あみ
小島 亜未 教授



Well-being 健康促進モデルの構築

私は健康生成モデル、自己決定理論、行動変容ステージモデルなど、いくつかの理論を活用し健康行動変容のメカニズムを解明する研究を行っています。健康生成モデルは、健康と健康破綻を連続体なものとしてとらえ、特にストレスが健康に与える影響について注目した概念です。ストレスに首尾よく対処する力であるストレスレジリエンスが高いと、ストレスに首尾よく対処でき心の健康を保持し、生活習慣も健康状態もより良好となることを確認しています。我が国には生きがい意識という概念がありますが、生きがい意識を我が国発祥のWell-beingとして捉え、生きがい意識を育むことが行動の変容を支えることを明らかにしました。『何が人を健康にするのか』を追究し、医療・保健・福祉の現場において有効な知見として活用されることを目指しています。

修了生 インタビュー

看護学専攻(2022年度修了)

のだめくみ
野田 恵 さん

[福井大学医学部附属病院 看護師長]



看護師として働きながら 臨床現場へ学びを還元

私は、看護専門学校を卒業してから約20年看護師として働いています。家庭・仕事の両立をしながら毎日を必死で過ごしている日々です。大学院に進学を決めたのは、看護学生時代に看護理論や看護教育論を履修しておらず、学びたい思いが強かったからです。県大には看護マネジメント学領域があり、看護管理を学ぶことができます。また働きながら学べる体制と学修環境が整えられていることが最大の魅力です。また、看護学領域以外の経済学部や社会福祉学科の授業も受けることが出来ます。普段と異なる領域の方々との交流やそれぞれの職業のことなど、新たな知見を学ぶことが出来ました。

働きながら大学院で学んだことをすぐに臨床現場で活かすことができ、その内容を学修の中でディスカッションし、さらに現場に還元することも出来ていると感じます。

看護福祉学研究科

社会福祉学専攻

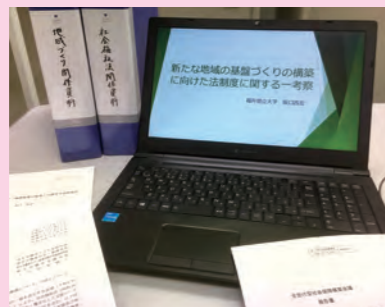
Major in Social Welfare Science

尊厳ある生のために

- 1 社会福祉学専攻は、北陸で最初に開設された福祉系大学院です。
- 2 毎年行われる研究報告ワークショップや中間発表会で研究のブラッシュアップを図ります。
- 3 修了生は、福祉・保健・医療・教育・司法・労働等の多方面の分野で全国的に活躍しています。

取得できる学位 ▶修士(社会福祉学)

研究紹介



さか ぐち まさひろ
坂口 昌宏 准教授

新たな地域の基盤づくりに向けた法制度の構築

私は、共生する地域社会の実現に向けた地域住民を主体とした新たな地域の基盤づくりに関する条件・環境整備を法律上にどのように組み入れていくのかという視点で研究を進めています。ここでいう「共生する地域社会」は、「すべての地域住民が『支え手』・『受け手』のどちらも併せ持つ『地域福祉の推進』主体としてお互いに尊重されるインクルーシブな地域社会」だと考えています。その実現のためには、地域の社会資源をベースに、新たな地域組織等とのネットワークを形成しながら、多様で重層的な地域の基盤を構築していくことが重要です。しかし、このような基盤づくりは全国的に画一的に実施されるものではなく地域の实情に合わせて行っていく必要があります。そこで、その地域に合わせた新たな基盤づくりが推進できるよう、地域づくりに関する条件・環境整備を法制度上にどのように規定する必要があるのかを検討しています。

教育目標・カリキュラムは
ホームページへ

<https://www.fpu.ac.jp/students/d154794.html>



修士論文タイトル (2017年度～)

- 社会福祉協議会における発展・強化計画策定プロセスへの参画の効果と課題の一考察
- ハンセン病者へのキリスト教伝道
—療養所教会の成り立ちと長島聖書学舎を中心に—
- 保育所において医療的ケア児に保育を提供するためのプロセスに関する研究
- 不妊夫婦の家族形成
—産婦人科医の取組む「新生児特別養子縁組」を中心として—
- ルドルフ・シュタイナーの理論と実践についての一考察
- 小児がん罹患児への病棟での遊びを用いた精神的なアプローチ実践
- 聖バルミナ・ミッションの衰退と解散に関する研究
- ソーシャルワークにおける面接とスキル、その実践的展開について～面接についての一考察～
- アダム・スミス『道徳感情論』における「共感」概念の社会福祉的射程
- 地域における高齢者と若者による集いの場が高齢者の日常生活に及ぼす影響に関する研究
- 子ども劇場活動の考察
- 障害者の就労継続のために有効な支援に関する研究
—就労移行支援事業所における就労定着支援の現状を通して—

在学生 インタビュー



社会福祉学専攻
きたで まな
北出 真菜 さん

[医療法人健康会いちごショートステイ 管理者]

高齢者分野での職務経験を研究に還元

今まで20年以上働いてきた高齢者福祉分野での職務経験を何か研究として形に残したいと思い、県大の大学院に進学しました。私は介護福祉士や介護支援専門員の仕事で、在宅で生活する認知症高齢者とその家族に関わってきました。この仕事を通して、わが国では介護に対する施設志向が根強く残っていると感じています。そこで、認知症高齢者を在宅で介護し続ける家族を支える活力とは何か、施設入所へと切り替えるきっかけには何かがあるのか、在宅介護を続ける家族の気持ちの変化について研究をしたいと考えています。大学院では、専門分野の違う院生や先生方と意見交換をすることで、これまで自分が気づけなかった視点で物事を考えることができるようになりました。今後は、認知症高齢者が住み慣れた地域で暮らし続け、その方を支える家族が安心して生活や介護を続けられる地域づくりが実現できるよう、学びを深めていきたいです。

指導教員

看護学専攻

研究科長/特命教授 よねだ まこと 米田 誠	認知症・神経難病・老化 ミトコンドリアと活性酸素の側面からの生理・病態の解析	特命教授 むらかみ しげる 村上 茂	薬理学・食品機能学 農産物や海藻など食素材の健康長寿との関連研究、タウリンの生理・薬理作用の解明
教授 ありた ひろみ 有田 広美	成人看護学 手術を受けた患者の睡眠に関する研究、がん看護および慢性看護に関する研究	教授 いわたに くみこ 岩谷 久美子	母子看護学 母性看護や助産の安全管理に関する研究や教育に関する研究
教授 かさい きょうこ 笠井 恭子	基礎看護学 自律神経や睡眠を整えるケアの開発に関する研究	教授 かわむら 川村 みどり	精神看護学 地域で暮らす精神障害を持つ人へのケアに関する研究
教授 こじま あみ 小島 亜未	公衆衛生看護学 食行動など健康行動を促す保健指導プログラムの評価に関する研究	教授 なかに よしみ 中谷 芳美	公衆衛生看護学 介護予防を推進する地域包括ケアシステム構築を目指した研究
教授 みずたに てつや 水谷 哲也	内分泌学・生殖科学 卵巣や胎盤の機能調節メカニズムに関する研究	准教授 あずま ともひろ 東 知宏	基礎看護学 感染管理、特に手指衛生に関する研究
准教授 かねかず ひとみ 金粕 仁美	小児看護学 妊娠期から育児期の母親のメンタルヘルス、ボンディング障害に関する研究	准教授 くまがい み 熊谷 あゆ美	成人急性看護学 周術期患者の創傷予防ケアに関する研究
准教授 はせがわこまこ 長谷川小真子	精神看護学 精神科看護師のフィジカルアセスメント能力向上に関する研究	准教授 ふしょう さなえ 普照 早苗	在宅看護学 退院支援・訪問看護を中心とした在宅看護及び家族看護、看護教育に関する研究
		教授 いけだ えいじ 池田 英二	精神医学、精神保健 ネット依存、脳機能、労働精神保健に関する研究
		教授 いまい ともみ 今井 朋美	ソーシャルワーク 若年性認知症やHIVなど制度の狭間にある福祉ニーズにおける援助モデルについての検討
教授 おくにし えいすけ 奥西 栄介	高齢者福祉、高齢者ソーシャルワーク、高齢者ケアマネジメント 高齢者介護施設におけるケアマネジメントに関する研究	教授 さの おさむ 佐野 治	地域福祉論、福祉計画論 福祉行政計画(および社会協定計画)の立案と策定、CSWの理論と実践手法に関する研究
教授 つかもと としゆき 塚本 利幸	社会調査 福井の地域特性と、健康や男女共同参画の関係を、統計学的に研究	教授 のりき さこん 法木 左近	保健・福祉研究方法論 真菌症の診断に関する研究、オートプシーイメージング(AI)に関する研究
教授 やまぐち りえこ 山口理恵子	権利擁護と民法総則、成年後見制度 日常生活自立支援事業や成年後見制度を中心に判断能力が不十分な人々の支援に関する研究	教授 よしひろ じゅんいち 吉弘 淳一	児童・家庭福祉 子どもを取り巻く環境からの視点で子どもの理解に関する研究
准教授 さかぐち まさひろ 坂口 昌宏	社会保障・生活保護 地域共生社会を実現するための社会福祉法制度の構築に向けた研究	准教授 はたけなか こう 畠中 耕	社会福祉史 近代日本における地域の社会福祉の歴史を研究
		准教授 ふなき しんすけ 舟木 紳介	ソーシャルワーク 外国人定住支援におけるデジタルメディアの活用に関する研究
		教授 おおしま ちか 大島 千佳	基礎看護学 看護技術のエビデンス探求(リンパ浮腫ケア、睡眠を整えるケア)
		教授 くめ まさよ 久米 真代	老年看護学 身体疾患をもつ認知症高齢者の看護ケアに関する研究
		教授 ひらい たかよし 平井 一芳	公衆衛生学・疫学 地域や職域をフィールドとした予防医学、健康科学に関する調査研究
		准教授 うめづ ちかこ 梅津 千香子	在宅看護学 在宅療養移行支援、意思決定支援、エンドオブライフケアに関する研究
		准教授 なりた みつえ 成田 光江	医療福祉学 全年代・全領域型地域包括ケアシステムに関する研究

健康生活科学研究科

2023年4月開設

健康生活科学専攻

Major in Health and Human Life Sciences

設置の趣旨

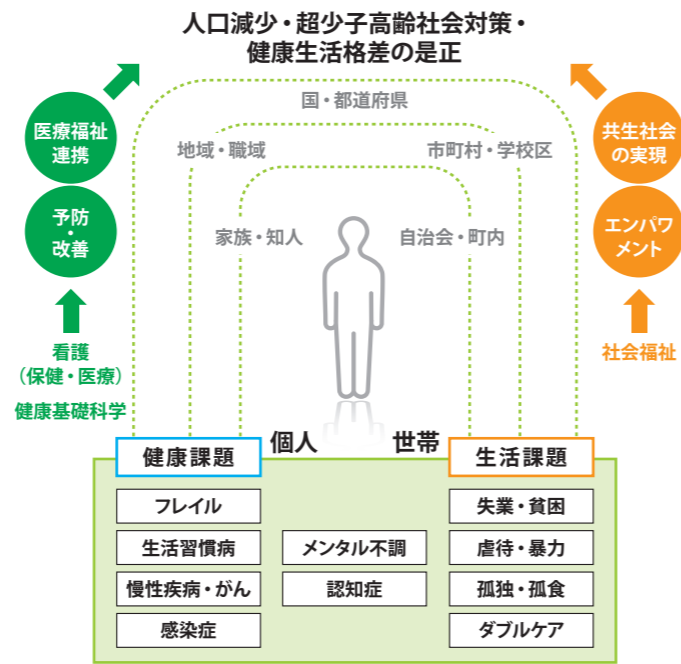
社会の多様化、人口減少、超少子高齢化において、人々は様々な健康上の課題や生活上の課題に直面し、個人・世帯レベルから家族・自治体、国・都道府県レベルまでの対策が求められています。本研究科は、看護学と社会福祉学が融合し、健康から生活までの課題に対して領域横断的に「健康生活科学」研究を行い、「ウェル・ビーイング（健康と幸福）に向けた共生社会」を目指すために、設置されました。

健康生活科学研究科で養成する人材

- ▷ 健康から生活までの多様な課題を包括的に探究できる自律的・国際的な研究者
- ▷ 基盤となる専門的知識・技術と高い見識を兼ね備え、地域にも貢献できる大学教員や行政担当者

取得できる学位 ▷ 博士（健康生活科学）

社会全体のWell-being（健康と幸福）の向上



カリキュラム

修学年数：3年
修得単位：16単位以上

共通科目

健康生活科学特論 / 研究倫理特論

専門科目

- | | |
|-------------|------------|
| <健康基礎科学領域> | <健康生活探究領域> |
| 健康科学特論 | 健康福祉学特論 |
| 看護実践開発演習 | 保健医療福祉演習 |
| 健康バイオマーカー演習 | 地域包括ケア演習 |

特別研究科目（博士論文指導）

- | | |
|------------|------------|
| <健康基礎科学領域> | <健康生活探究領域> |
| 健康基礎科学特別研究 | 健康生活探究特別研究 |



2023年度入学生

指導教員

健康生活科学専攻

健康基礎科学特別研究

研究科長

よねだ まこと
米田 誠

- 老化・疾病・フレイルなどにおける活性酸素のかかわりを評価する
- 甲状腺疾患における神経症状について解析する

むらかみ しげる
村上 茂

- 農産物や海藻など食素材の健康長寿との関連研究
- タウリンの生理・薬理作用の解明

みずたに てつや
水谷 哲也

- 胎盤の分化調節メカニズムの解明
- 産科疾患に対する新たなバイオマーカーの開発

おおしま ちか
大島 千佳

- リンパ浮腫ケアのエビデンス探求
- 睡眠改善ケアのエビデンス探求
- 睡眠環境に関する研究

健康生活探究特別研究

みちのぶ りょうこ
道信 良子

- 小児がんの子どもの医療における協働意思決定
- 障害のある子どもの生涯学習と社会参加
- 高齢期の健康とウェルビーイングにプラマイヘルスケアが果たす役割

ひらい たかよし
平井 一芳

- 地域高齢者のフレイルとその関連要因（運動、栄養、社会活動など）
- 小学生の身体活動と健康・体力
- 職域におけるメタボリックシンドローム対策

ありた ひろみ
有田 広美

- 治療を受けるがんおよび慢性疾患患者家族に関する研究
- 手術を受けた患者の睡眠、せん妄に関する研究

授業担当

こじま あみ
小島 亜未

- 地域包括ケア演習

さかぐち まさひろ
坂口 昌宏

- 地域包括ケア演習

学外兼任（放送大学大学院教授）

やまうち とよあき
山内 豊明

- 看護実践開発演習

教育目標・カリキュラムは
ホームページへ

<https://www.fpu.ac.jp/students/d154794.html>



のりき さこん
法木 左近

- 白癬の診断
- 検体採取のための新しい機器の開発
- 患者自身による白癬検査の問題点

かさい きょうこ
笠井 恭子

- ストレスや不安の強い人々を対象としたリラクゼーション
- 睡眠状態が不良な人々を対象とした睡眠改善ケア
- 要介護高齢者の要介護度改善を目指したケア

かわむら
川村みどり

- 精神障害者による看護ケアへの評価
- 精神障害リハビリテーションに関する看護ケアの開発
- 精神障害者の回復を支える多職種連携

くまがい み
熊谷あゆ美

- 創傷の発生と皮膚軟部組織に加わる外力や応力との関係に関する基礎研究
- 創傷予防のためのマットレスの開発研究

いけだ えいじ
池田 英二

- 青少年のインターネットアディクション予測因子
- メンタルヘルス不調による休職者の再休職予測因子
- 大学生の発達障害傾向と修学上の問題の関連

くめ まさよ
久米 真代

- 認知症高齢者の入院・入所による環境変化への適応を促進する看護研究
- 身体疾患の治療中の認知症高齢者の苦痛緩和に関する看護研究

学外兼任

そうま だいすけ
相馬 大祐

- 障害者が施設入所に至る過程とその支援について
- 入所施設からの地域移行支援について

うめづちかこ
梅津千香子

- 地域包括ケア演習

学内兼任（経済・経営学研究科教授）

ふじの ひでのり
藤野 秀則

- 健康科学特論